

全校生徒や保護者など約200人が訪れる中、スライドを使ったプレゼンなどが行われた総合研究の発表会＝南木曾町の蘇南高で

個性が光る総合研究

蘇南高3年生が発表会



南木曾町の蘇南高校で十五日、三年生が総合的な学習の時間の授業で一年間取り組んできた「総合研究」の発表会があった。全校生徒と保護者ら約二百人を前にスライドを使ったプレゼンや、研究内容を説明するポスター展示が行われた。卒業研究の位置付けで、同校総合学科の一期生が卒業した二〇一一年度から毎年開かれている。

今年は四十六人が三十八グループに分かれ、週二コマの授業でそれぞれ関心のあるテーマに取り組んでいた。

十一月末に開かれた選考会で高い評価を受けた十一グループが、聴衆の前で発表した。オーディオ機器に関心があるという岡田昂也さん(二セ)は、スピーカーの音を響かせるための外箱部分に着目した。ベニヤ合板などを使って二種類の外箱を自作し、市販のスピーカーユニットを取り付けて音質を比較。「箱の容積や構造が音に大

きく影響することがわかった」などと結論づけた。

古瀬龍斗さん(二セ)は、学校指定のジャージのデザインについて研究。学校の考えや教育方針を踏まえた上で、生徒の多くが着たがるようなデザインとは何かを考え、オリジナルのロゴを考案。小幡正樹校長からも高評価を受けたという。

発表を見守った中村真太郎教諭は「人工知能には出せない新しい価値観を生み出せるような人材になってほしい」と話した。

(酒井大二郎)